

第5回スクールミーティング意見交換内容

- 日時： 平成25年8月7日（水）午前10時～午前11時30分
- 会場： 武蔵中学校図書室
- 参加者： 熊本市教育委員会（崎元委員長、森委員、田口委員、廣塚教育長）及び事務局
教職員19人（武蔵中7人、武蔵小6人、弓削小6人）
- テーマ： ①「徳・知・体」の調和のとれた子どもたちを育成するために必要なこと
②学校における現状と課題
③いじめや体罰の問題について
④部活動について

（◆：質問、○：意見、▼：要望）

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
1	①	学力保障	○ 全ての子どもの学力を保障するために、教師が子どもに向き合い、温かい言葉がけができるような環境づくりが必要。 ○ チームティーチング等の少人数指導の学習効果は高く、つまづいている子どもに寄り添うことができる。 ▼ チームティーチング、少人数加配、教育活動サポーター等、今後も人的支援をお願いしたい。	
2	①	言葉遣いに関する生徒の現状(中学校)	○ 会話で主語や述語を省略する子どもが増えている。 ○ 子どもの省略した言葉に、保護者が述語を補足する傾向がある。 ○ 子どもに対し、コミュニケーション能力の前に国語力、話せる力を育てる必要がある。	○ 日本語は省略する傾向にあるが、その状況で、子どもたちが英語を勉強すると大変なのではないか。
3	①	言葉遣いに関する児童の現状(小学校)	○ 言葉遣いは低学年から指導している。 ○ 授業時間外や、教師との距離感が友達感覚になったりすると、省略された言葉が使われることが多いので、教師と子どもとの立場を分けた方がよいと感じる。 ○ 目的にあった文を書く力が落ちている。文章が上手く作れない。 ○ 伝聞形式の文を書く問題でも誤答が多い。 ○ 読書量は関係ある。読書をしている子どもは、表現力が豊かである。 ○ 子どもたち同士で単語で会話をしているが、相手に通じており、目的は果たしているようだ。	◆ 読書量との関係はあるか。 ◆ 子どもたち同士の会話はどうか。

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
4	①	スマートフォン、携帯	○ 学校では子どもたちに携帯等は持たせないようにしているが、家庭では、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等を使って仲間同士で会話している。 ○ 公的な場、仲間以外との会話、生の人間相手のコミュニケーションは苦手である。 ○ 学校でも言語活動の充実やこころの教育を行っているが、社会の流れは逆行しており、厳しいと感じている。 ○ 学校はこのような実情を家庭教育や地域社会に啓発していく必要がある。	◆ スマートフォンや携帯等では、きちんとした文章を書く必要がないが、スマートフォンが普及したことで、学校教育への影響はないのか。
5	①	学校での言語活動	○ 学校では、生徒総会、生徒議会、学級会等で指導している。 ○ 事前に指導された子どもは発言できるが、大半はじっと聞いている。 ○ 自発的な発言は難しい。学校で研究し指導しているが、十分ではない。	◆ 学校では、公的な場で発言するトレーニングはしているのか。
6	①	郷土教育を通じた小中連携	○ 郷土学習をとおして、武蔵小、武蔵中、弓削小が繋がると思う。	○ 教育委員会では、先進地視察等で小中一貫校について勉強しているところ。 ○ 小中が連携して取り組んでいくことはいいことである。 ○ 富合では、小中連携の取り組みを進めている。 ○ 第4回のスクールミーティングで、江原中校区でも、人権教育を中心に連携をしていると聞いた。 ○ 学校間をつなぐ時間として、総合的な学習の時間が考えられるが、小学校と中学校の総合的な学習の時間の内容はリンクしていないので、活用する場合は見直しが必要である。(事務局)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
7	①	郷土教育を通じた地域との連携	○ 子どもたちは、地域の方と意見交換するのは苦手だが、地域の人材を発掘して、地域の歴史を伝えてもらうことは大切であると感じる。 ○ 以前の勤務校では、地域の人材バンクがあった。学校によって状況は違うようである。	○ 小中が連携し、地域を学ぶ視点をもつことは大切である。(事務局) ○ 地域の学習については、主に郷土読本を参考に地域の史人の学習や記念館等の利用が考えられる。(事務局) ○ 地域の人材については、各学校で探している状況。(事務局)
8	①	学校と家庭との連携	▼ スクールカウンセラー(SC)に来校してもらい、学校、保護者、児童生徒の間に入ってほしい。	◆ 学校では、具体的にどのような連携を求めているのか。 ○ SCは、拠点となる中学校に配置され、校区の小学校は利用できるようにしているが、活用申込が多いため、活用できるまでに時間がかかる実情はある。(事務局)
9	②	SNSの危険性への対応	○ 学校では、人間関係のトラブル、規範意識の低下への対応、携帯等のトラブルの未然防止等の保護者啓発をしている。 ○ 講師費用は無料である。 ○ 民間企業の啓発活動事業を利用し、校区小中学校保護者、地域に呼びかけて、携帯等のトラブルに関する講演会を開催した。 ○ SNSの長所・短所や、インターネットトラブルの具体的な事例紹介があり、とてもわかりやすいと好評だった。子どもたちにも身近な問題として捉えやすい内容で、子どもたちにも聞かせてほしいとの声もあった。	◆ 学校でどのように取り組んでいるか。 ◆ 講師の謝礼や民間企業の活用はどのようにしているのか。
10	②	中学校での情報モラル教育	○ 生徒に対して情報モラル教育の充実を図り、ネット上での問題回避の方法等を教えていく必要がある。 ○ 各学年の技術科の授業で、情報モラル教育について2時間扱う計画である。また、道徳等でも指導する。	◆ 情報モラル教育についてどのように取り組んでいるか。

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
11	②	小学校での情報モラル教育	○ 十分ではない状況。 ○ SNS等についての教師自身の知識が十分ではない。 ○ 児童の3～4割が携帯を持っており、SNSやゲーム機を使ったトラブルも起こっている。民間企業を利用してでも指導していかなければならない。 ○ 学年便りで、保護者へ実態を知らせている。	◆ 小学校での情報モラル教育はどのようにしているのか。
12	②	SNSの危険性	○ インターネットに接続できるゲーム機を使ったトラブルがあった。 ○ 児童が、悪質なソフトの情報を入手し、広がったことがあった。 ○ 本人が知らないうちに、他人により写真がSNSに載せられたことがあった。 ○ 外部とつながると学校でも指導しにくくなる。 ○ 保護者に対しては、家庭での指導を根気強く訴えていくことが大切である。 ○ 子どもにネットの危険性を指導することで、保護者に伝わることもある。 ○ 携帯にフィルターをかける等、未然防止の具体的なやり方を保護者が知らないことも多く、保護者に情報を知らせていくのも大切である。	◆ SNSによるトラブルの事例はないか。 ○ 学校や教育委員会の手の届かないところで起きる問題にどう対応していくかが課題である。 ○ SNSのトラブルの防止は、保護者をお願いするしかない。 ○ 保護者への教育が大切であり、保護者向けの講演会は大変意義がある。 ○ 講演会に参加する意識の高い保護者は良いが、講演会等に参加しない保護者への指導、啓発が問題である。

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
13	②	学校へのエアコン設置	○ 学習に集中できる環境づくりが大切である。 ▼ 教室にエアコンを設置して欲しい。 ○ 7月は室温35度の教室で授業をしていた。 ○ 1学期後半は、暑さで気分が悪くなり、何人もの子どもが保健室に行っていた。	○ 限られた予算の中で、来年、音楽室、特別支援学級にエアコンを設置する。(教育長) ○ 全部の教室にエアコンを入れると45億円ほどかかる。ちなみに、新設した田迎西小の建設費は24億円程。設置とは別に、エアコンには維持管理費がかかる。(教育長)
14	②	ICT機器の活用	○ 弓削小には電子黒板が1台しかなく、使用のためのスケジュール表が必要くらい需要がある。 ▼ 電子黒板は3階に置いてあり、移動が大変である。他の階では使えないので、各階に配備してほしい。	
15	③	いじめの問題への意見	○ いじめの問題に対し、地域、保護者はすぐに結果を求める傾向にある。 ○ 学校では地道に取り組んでいるが、メディアでは取り上げることがなく、学校の取り組み等が世間に伝わっていかないことが残念である。	
16	③	いじめの問題	○ 両方で起こり、部活動でのいじめの問題は、学年、学級にも影響を与える。 ○ 問題が大きくないうちに、多くの教師でできるだけ早い対応を行っている。 ○ 規範意識が低くて陰の発言力が強い子どもがおり、その子に対してはものが言えないという構図はあるが、正しい子が生きづらい学級にならないようにしている。 ○ 担任としては、正しいことを発言できない子がつぶされていかないように目を光らせ、根気強く指導している。 ○ 正しいことを発言できない子どもたちが発言する場を、意図的に設定することもある。 ○ 発言力のあった子どもとなかった子どもの立場が逆転することはあった。	◆ いじめは、学級と部活のどちらで起こるのか。 ○ 規範意識の高いきちんとしている子どもがいじめられる傾向にあると聞く。 ◆ 子どもの間で格付けがあるのか。 ◆ 発言力がなかった子どもが、立ち上がる場面はないのか。

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
17	③	子どもと触れ合う時間の確保	○ 10年前はよく子どもと話していたが、最近は放課後も時間に余裕がない。 ○ 子どもと過ごす何気ない時間に、生徒指導上必要な情報が手に入ることがある。 ○ 子どもと触れ合う時間が必要であり、負担軽減のための方策を考えなければならない。	◆ 子どもと触れ合う時間を確保するための方法はあるか。
18	④	熊本市の部活動の現状	○ 部活動を担当できる教師が少ない。 ○ 保護者は部活動に対して、子どもの人格形成だけでなく、技術向上や勝つ喜びを味わうことを期待している。	
19	④	熊本市の運動部活動の指針	○ 指針は守られている。 ○ 以前は小学校までに身につけていた技術を、今は中学校で指導しなければならない。 ○ 保護者からは過度な期待があり、ギャップが大きく、教師にとって負担になっている。 ○ 部活動が縮小していった場合、経済的に厳しい家庭の子どもはスポーツに触れることができなくなるのではないかと心配している。 ○ 一部の過熱しすぎる部活動を抑えるために決められた指針が、全ての部活動の競技力を落としているように感じる。 ○ 小学校の平日2時間以内という練習時間では、十分な活動時間が確保できないと思っている。競技の楽しさが味わえるまでに育てたいと考えている。 ○ 指導できない部活動を担当してほしいと言われ、担当している先生はたくさんいるが、それが教師として負担となる。	◆ 部活動指針は守られているか。

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
19	④	熊本市の運動部活動の指針(つづき)		○ 熊本市の小学校のように、学校教育の中で部活をやっているのは全国的に少ないが、部活の効用はたくさんあるのでやっていきたい。(教育長) ○ 行き過ぎた部活に対するクレームから指針ができたのではなく、学校教育活動の一環としての運動部活動の指針をまとめている。(教育長) ○ 競技力を高めてほしいという保護者の要望もあるが、学校教育の中で行う部活動であると話している。(教育長) ○ 今後も小中学校では、この指針に沿ってやっていきたい。(教育長)
20	④	部活動指導	○ 50歳を超え、やっと部活指導から外れた。 ▼ 炎天下の中、中高年で部活動の審判をするのはつらい。指導はもとより、審判も外部の方にやってほしい。	
21	その他	特別支援学級への教員加配	○ 今年から、県の運営加配の基準変更により、教員加配の基準が特別支援学級1学級の児童生徒数5人から6人へと引き上げられた。5人の子どもを教員一人で見るのは厳しい。 ▼ 特性は多様化しており、子どもの状態を考えて配置をしてほしい。 ▼ 全体的に特別支援学級の生徒は男子が多く、支援学級担任は女性が多い。女性教諭が男子の担任になっているが、男子中学生の成長の点からも、男性教諭の確保、配置をお願いしたい。	
22	その他	個に応じた指導	○ 学級内で学力の差が大きく、個別対応が必要。 ▼ 学校でも研究はしているが、人的支援を増やしてほしい。	
23	その他	教員の負担感	▼ 自宅へ持ち帰る仕事が多く、睡眠時間を削って仕事をしている。1学級の人数を少なくできないか。 ○ 子どもの数が少なくなれば、一人一人に対応でき、教室の温度も少しは下がると思う。	

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
24	その他	特別支援学級の 人材確保	○ 保護者は個に応じた指導、個別対応を求めているが、実情は一人の教師では対応は厳しい。 ○ 一日の中で優先順位をつけて対応しており、一人の子どもにかけられる時間は短い。 ○ 子どもとじっくり向き合えないため、子どもの実態把握が十分にできていない。	
25	その他	学級支援員の 増員	○ 学級に個別支援が必要な子どもが2人、他にも支援が必要な子どもが数名いる。 ○ 小学1年生は学校生活の基本的な習慣をつけるため指導が必要な時期である。 ▼ いじめの問題や細やかな指導、子どもと向き合う時間の確保が難しい中、学級支援員をもっと配置してほしい。	
26	その他	教師の多忙感	○ 宿題を出してほしいという保護者の要望を受けて宿題を出せば、休み時間に見なければならぬ。 ○ 子どもと向き合う時間がないので、日記を宿題に出したら、日記を読んでコメントを書くのに時間を費やし、向き合う時間がさらになくなる。	
27	その他	猛暑への対応	○ 猛暑でコンクリートの床が熱せられ、水泳指導でプールサイドに立っていられない状況。	
28	その他	学校施設の整備		○ 平成21年度から今年度まで耐震化工事を進め、これからは体育館、プールの工事に入る。文部科学省からは学校施設の長寿命化計画を作るよう言われているが、老朽化の進行が進んでおり、それも間に合わない状況。 空調の必要性は、これからも訴えていく。(教育長)